

<訓読のみ言>

『真の父母經』

第十三篇 復帰摂理の完結と天一国の定着

第四章 天一国の定着と私たちの行く道

第三節 天一国国民の生活

14 私たちは、どのようにして一つになることができるでしょうか。何より、天に父母様に会わなければなりません。それは簡単なことではありません。人類始祖が墮落したからです。墮落によって、人類は無知に陥り、創造本然の本性が隠されてしまいました。無知の壁は六千年間、積りに積もって、高く、分厚くなり、墮落性の川は広く、深くなりました。人間の力だけでは、この壁を越えたり、この川を渡ったりするのは困難です。愛の本体であられる天の父母様は、常に私たちを助けてくださる準備ができています。すべてのことは、自分自身にかかっています。良心を目覚めさせなければなりません。良心は、第二の天の父母様です。神霊と真理によって常に目を覚まして祈り、万事に感謝する生活をすれば、天の父母様の声を聞くようになり、戦慄が走るように感じるでしょう。

ここからさらに進み、すべての人は、天の父母様の代身者に出会わなければなりません。人類歴史は、一つの中心を立てようとされる復帰摂理歴史です。二千年前、天のひとり子としてイエス様をお立てになりましたが、イスラエル民族の不信によって、十字架で亡くなりました。天の摂理は、再び再臨のときまで延長されざるを得なかったのです。ついに人類は、再臨主がこの地に来られ、天の新婦であるひとり娘を探し出し、真の父母として顕現された祝福の時代を迎えています。人類は、天の父母様の代身者であられる真の父母に出会い、侍って、従わなければなりません。そのようにしてこそ、六千年間、続いてきた原罪を清算できるのです。愛と知恵に満ち溢れた創造本然の人間に、生まれ変わることができるのです。

15 私たちは歴史を通して、選ばれた民族と責任者、国々が責任を果たせなくなるとき、いかに大きな蕩滅を払ってきたかを見てきました。大きな祝福を受けた位置、その位置は、自分だけの位置ではなく、世界全体が一つになる位置に進めるよう、責任を果たさなければならないという話です。地政学的に見ても、日本は韓国と一つにならなければなりません。一国が豊かに暮らすとしても、アジアの他の国々と一つにならなければ、永遠に続かないでしょう。一つになる道だけが、生き残ることのできる道であり、また、深刻になっている地球な環境問題や、様々な問題を改善することのできる道です。日本も多くの問題があるのですが、真の父母様に侍って一つになるとき、すべての問題点が一つ一つ取り除かれていくでしょう。日本の祝福家庭と国民が、真の父母様と一つになって、アジアを救い、世界を救う活動の先頭に立つてくれることを願います。